

学生さんもおすすめ！
＼新任の先生のご研究をのぞいてみませんか／

人間科学セミナー

申込み
不要



10.2 (木)

13:30-15:00

人間科学研究科 北館2F ラーニングコモンズ



社会学・人間学系
基礎人間科学講座

鈴木 和歌奈 先生

13:30 -



行動学系
人間行動学講座

木村 司 先生

14:00 -



共生学系
グローバル学講座

伊東 さなえ 先生

14:30 -



大阪大学大学院人間科学研究科

附属 未来共創センター



mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

鈴木 和歌奈 先生 / 社会学・人間学系 基礎人間科学講座

ナリワイをつくる：地球温暖化と環境危機に対する新しい政治

温暖化と環境危機が深刻化する今、大規模な社会・経済システムの変革が求められています。私たちは、生活者として何もできず、国や国際的な政策や規制、もしくはテクノロジーに頼るしか方法はないのでしょうか？私の研究では、自ら暮らし方を変えて、環境危機に対応しようとする人々に注目しています。例えば、空き家を自ら直して住み、自給自足の農業を行うと同時に陶芸作品を売って現金を得る。デザイナーとして働く傍ら古いビルを自ら改装して、Airbnbを始めるなどの生活です。このような複数の仕事を作り出して暮らす人々の生き方は、「ナリワイ」と呼ばれます。ナリワイは、文筆家でありナリワイ実践者の伊藤洋志氏によって生み出された概念です。本セミナーでは、ナリワイをつくるのがどのように社会や経済の仕組みを変えるポテンシャルを持つのかをお話したいと思います。

木村 司 先生 / 行動学系 人間行動学講座

基礎と応用を循環する

本講演では講演者が行ってきた基礎研究と応用研究、そしてそれらの繋がりを概説します。私たちは街を歩いている時、ぶつかることなくスムーズに人とすれ違うことができます。これには「予測」と呼ばれるこころの働きが関係していますが、「予測」は普段意識されず、また意識した段階でその働きが中断してしまう可能性があります。このようなこころの働きを調べるために、講演者が開発した実験パラダイムと研究内容、そして近年取り組んでいる研究について紹介します。また、このようなこころの働きを調べる方法や日常場面での心理状態の評価は、様々な分野、業界でも注目されています。しかし、これらを検討する際、どのような実験手法や指標が有用であるかは状況ごとに異なります。このような問題に対し、「主観」「行動」「生理」と呼ばれる複数の指標を組み合わせ検討した共同研究の事例を紹介します。

伊東 さなえ 先生 / 共生学系 グローバル学講座

グローバル支援と地域のせめぎあい —2015年ネパール大地震を事例

世界各地で大規模な自然災害が発生する現代、被災地には国際機関やNGOなど多様な支援が流入します。復興過程でも、家屋や文化遺産の再建、防災体制の整備といった分野で「国際的な標準」に基づく協力が行われます。しかし、被災地ごとに歴史や社会構造は異なり、国際的な枠組みと地域の文脈との間には摩擦や調整が生じます。では、グローバルな支援と地域社会は実際にどのように交渉し、対立し、ときに共存しているのでしょうか。報告者は2011年からネパールで調査をしてきました。2015年の地震で主な調査地が被災してからは、日本のNGOや調査地の地域団体の活動に参加させてもらいつつ、復興過程を追ってきました。その参与観察に基づきつつ、グローバルとローカルの交錯と衝突を検討したいと思います。それを通じ、グローバル支援とローカルの関係性のあり方についても考える機会になれば、と思います。



大阪大学大学院人間科学研究科

附属

未来共創センター



mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp